

ヒロシマ ユネスコ

広島・北京ユネスコ協会
友好姉妹協会締結
記念特集号

日中ユネスコ交流の旗手に

広島・北京協会が姉妹縁組み

平成幕明けの今年、広島ユネスコ協会にとっては、北京市ユネスコクラブとの友好関係が締結書に基いて正式にスタートする交流元年となりました。

昨年十月十八日、北京市で、広島ユネスコ協会は、岐阜県ユネスコ協会とともに北京市ユネスコクラブとの間で「日中ユネスコ友好姉妹協会」締結書に調印しました。その発効が一九八九年一月一日です。

友好の新たな前進

広島ユネスコ協会副会長 加藤 朗

一九八四年からの日本ユネスコ協会連盟と中国教育国際交流協会との友好交流計画は、新たに地域ユネスコ協会間の友好姉妹締結として発展することになり、この調印がわれわれ訪中団に託されることになった。

今回の締結は、日本ユネスコ協会連盟と中国教育国際交流協会との間の四年間にわたる「日中民間ユネスコ交流計画」に基いて、その最終年度に、単位クラブ段階での交流を発進させるために、日中両協会・連盟の仲介で行なわれたもので、とりわけ友好と平和の推進という観点から、その当事者の一つに広島ユネスコ協会が選ばれたわけです。

冒頭、中国教育国際交流協会を代表して黄仕琦副会長は「日

友好姉妹協会締結にあたって訪中団が派遣されましたが、広島ユネスコ協会からは、加藤朗一副会長が団長として、信井正行副会長、新川貞之常務理事が参加しました。
向こう四年間、日中交流の絆を深める中で「北京から何を学び、広島は何を伝えるべきか」——重大で、やり甲斐のある活動が始まります。
以下、訪中団の報告です。

中友好の発展は人類の発展と幸福の原動力だ」と、格調の高い挨拶をされた。次いで、北京市ユネスコクラブ協会の陶西平主席は、新しい姉妹協会の意義を莊重な語調の中に期待を込めて力強く述べられた。
私は、「新たな前進にあたっては、日中友好の原点に立って姿勢を正し、友好を進めていきたい」と、信ずるところを述べ、併せて、原爆の惨禍にあった広

島市民の平和への願いにも触れた。
日中双方の多数の参列者の見守る中、代表者による調印が終わり、ここに新たな崇高な課題に面することとなった。
同日は、昼と夜二回にわたって中国側からの招宴が催され、翌日夕刻には、われわれの答礼宴をもってこれに応えた。和やかな談笑と乾杯を重ねる中で、早くも「老朋友」とも呼び合えるような楽しい雰囲気になった。
ところで、北京市ユネスコクラブは、一九八四年に発足し、



〈調印式。中央が加藤団長〉

日中ユネスコ友好姉妹協会締結書

1984年、日本ユネスコ協会連盟と中国教育国際交流協会は「日中民間ユネスコ交流計画協議書」を締結して以来、両国のユネスコ交流の発展、並びに日中民間ユネスコ活動の促進に積極的に努力を重ねてきた。

同交流計画による双方の密接な友好関係の成果をふまえ、中国の地域ユネスコ組織と日本の地域ユネスコ協会の交流をますます促進することをめざし、ここに日中双方合意のもとに、「ユネスコ友好姉妹協会」を締結する。

1. 中国北京ユネスコクラブと日本の広島ユネスコ協会および岐阜県両ユネスコ協会は友好関係を樹立する。両者は随時にユネスコ活動資料、図書を交換する。
2. 1989年度と1991年度は中国側が北京市ユネスコクラブ代表団を日本に派遣する。1990年度と1992年度は日本側が中国に派遣する。
3. 双方は、派遣団の往復渡航費は自前で負担し、代表団受け入れの際の国内諸経費（食事、宿泊、交通費など）は受け入れ側が負担する。
4. 代表団の訪問日数は10日間、団は7人で編成する。

本協議書の有効期間は4年間（1989年1月1日～1992年12月31日）とする。締結期間中の改変などについては、双方の協議に基づき、合意の上決定する。

1988年10月18日

日本ユネスコ協会連盟	栗野 鳳
広島県ユネスコ協会	加藤 朗一
岐阜県ユネスコ協会	澤島 武
中国教育国際交流協会	李 滔
北京市ユネスコクラブ	陶 西平

同協会は一九八六年に成立、現在の会員数は一万五千名である。一九八六年の国際平和年、一九八七年の国際居住年、一九八八年の国際旅行年には、協会より統一テーマ行事の設定がなされ、各クラブではこれに基づいて多彩な行事が展開された。

各クラブについては、今回訪問参観した学校管見の中から摘すると――

（北京市二里沟小学）
正門の門柱に二里沟中心小学ユネスコクラブと大書した表札

が掲げられていた。ユネスコに対する学校の基本姿勢が偲ばれた。スウェーデン、アメリカに姉妹校をもつ。

（北京市第四中学）
八十年の歴史をもつ代表校。代表団は、全国コンクールで金賞を得たという民族楽器クラブの演奏を聞く。「荒城の月」の演奏に感動する。ビデオに録って日本の中、高校生に視聴させることができればと思った。

（崇文区青少年科技馆）
科学技術教育を主とする青少年

年の校外教育機関。作業中の生徒が作品に署名して一行にプレゼントしてくれた。

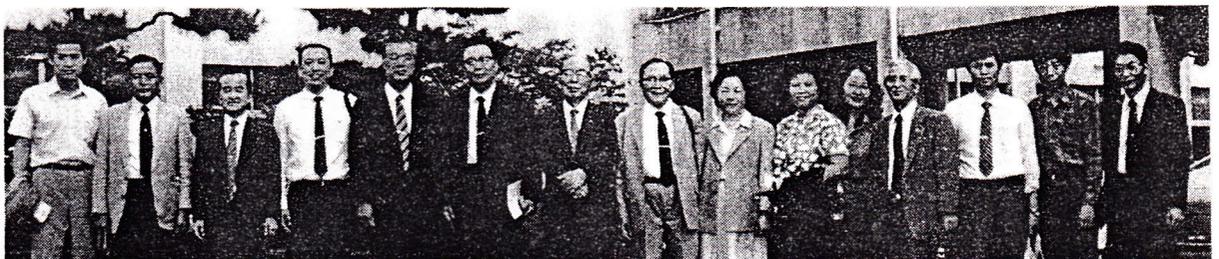
この度の訪中では、敦煌、西安等で中国が世界に誇る数多くの文化遺産に接することができた。今まで単に概念的であったものが、今や生きた感動として私の中に宿った。また、あの広い国土と十億の民衆が繰りひろげる新しい建設の実態に触れたことは、大きな収穫であった。

中国のある要人が「中国は今や

新たな「長征」を開始した」と言われた気迫にも接する思いがした。中国の現実には厳しさが、21世紀の中国の前途には注目すべきものがある。

西欧地区の航空日程は大変不順であった。そのため、お世話くださった多くの方々のご配慮も大変であった。

とりわけ、全行程をご案内いただいた蔣寛、刘宝霞両先生に心からお礼を申しあげる。上海空港では、文字どおりの再見を誓った。



（昨年9月21日広、北京市ユネスコクラブ7人の代表団がご来広。見学先の広島大学附属高校で。左から6人目が、陶西平団長）

「松齋梅譜」のこと

広島ユネスコ協会副会長 信井正行

このたびの訪中に際して、私
は一冊の本を携行して行くこ
になる。今夏、広島市立中央図
書館が刊行した「松齋梅譜」復
刻版である。

姉妹提携調印式の翌十月十九
日、北京図書館で館長弁公室主
任の黄潤華先生にお渡ししてほ
とする。

「松齋梅譜」は元代の画家呉
大素(号は松齋)が著した書物
であり(一三五一年)、その原
本は中国にも伝わらず、その写
本(別註)が四点、日本に現存

していることが判明しているだ
けである。

その写本の一冊を広島市立中
央図書館が所蔵しており、この
たびの復刻版は正確には「松齋
梅譜」写本復刻版ということだ
である。

ところで、梅譜とは梅の図鑑
ということであるが、中国で梅
がとくに熱心に愛好され、鑑賞
されるようになるのは宋代(九
六〇―一二七九年)以後のこと
である。中国では梅は三友(松・
竹・梅)四君子(蘭・菊・梅・
竹)のいずれにも入れて愛好す
る。日本人が桜を愛するのと好
対照である。

日本人の桜の見方は、
敷島の 大和心を 人とはば
朝日に匂う 山桜花
(本居宣長)

であり、
久方の 光のどけき
春の日に しづ心なく
花の散るらむ
(紀友則)

であるが、中国人の梅花を賞で
る詩は、数多くある。代表的な
ものとしては、次の詩をあげる

ことができるだろう。

「詠梅」 陸游

寂寞閑無主 更著風和雨

無意苦爭春 一任群芳妒

零落成泥碾作塵 只有香如故

著者、呉大素の伝記の詳しい

ことはわからないが、会稽・余

姚(浙江・紹興)の人である。

「松齋梅譜」の自序に「湖海

を漫浪して今に四十年」とある

から、若い時から故郷を離れて

遍歴したものと思われる。

その間、諸国の文人との交わ

りの中からものと思われる朱

子学の片鱗、あるいは禅僧らと

の交遊を裏づける禅宗への浅か

らぬ関心、さらには宋の道学の

影響が、その論説の中に感じと

られる。

されば、「松齋梅譜」は梅の

図鑑というよりも、梅画法を通

じての哲学書という性格の著述

というべきものである。

隋・唐以後、日本の学徒は中

国の文物をもとめて、先を争っ

て海を渡って行った。

「松齋梅譜」も日本の学僧た

ちにより写本にしてもち帰られ

たものであり、日本でさらに幾

人かの手によって書写が行われ

たものと思われる。

かつて学僧たちの命がけの渡

航によってもち帰られた「松齋

梅譜」を、再び海を越えて中国
にお返しできたことに、ひとし
おの感慨と心ひそかな喜びをか
みしめたのである。

(註) 写本四点。近衛本、妙知
院本、富岡本、浅野本(広島市
立中央図書館蔵)の四冊。いず
れも欠落が少くないが、その中
で浅野本が唯一首尾完備してお
り、もつとも欠落が少ない。旧

広島藩主浅野家に伝わり、広島
市立中央図書館に寄贈されたも
のである。富岡本はもと狩野家
に伝わり、のちに富岡鉄斎の蔵
するところとなり、鉄斎の手に
なると思われる書き込みがあ
る。現在は大東急記念文庫蔵。

■国際交流サロン(会場・
本通りアンデルセン) 2月
25日14時広島女子大学長河
上道生氏。3月16日18時
外務省石橋太郎氏。

■文化講演 3月28日18時
竹沢丹一氏。平和記念館

シルクロードを実感

広島ユネスコ協会常任理事 新川貞之



広島・北京協会縁組みを記念
するパーティーは、昨年12月12日
広島市チサンホテルで開かれ、
広島市、各団体、広島ユ協など
のメンバー百五人が出席し、歓
談のうちに日中交流の発展を喜
びました。また、会場に李春生
さんらに在広中国人留学生も参
加。(写真)

昨年九月、古都奈良の第44回
日本ユネスコ運動全国大会とシ
ルクロード博に参加する機会に

恵まれました。その時、広島訪
問を終えられたばかりの北京市
ユネスコクラブの代表団員との



〈新川貞之さん。敦煌で〉

再会を喜び合いました。それから一カ月たない十月に訪中し、皆さんの熱烈歓迎を受けました。加藤団長の達者な中国語の挨拶で調印を済ませ、待望の敦煌、蘭州、西安などの旅をさせていただきました。

▲敦煌への道▼

「敦」とは大きい、「煌」とは盛ん、の意とされています。日本文化の源流に連なるシルクロードの交通の要衝として栄えたこの町は、砂漠と山丘の地にあり、九州くらいの広さに十万余の人が住み、扇状地がオアシスとなった農地で農耕を営み、有名なメロン(白蘭瓜)を産んでいます。

市教育局長の案内で砂礫の直線道路30キロメートル車で走った所、県城から東南に横たわる鳴沙山の断崖に、数百の洞窟が穿かれています。はじめて見る砂漠の細かい砂粒に足を埋め、平山郁夫大画伯の「流沙浄土姿」秀作を思い、ラクダに乗ってキャラバ

ン隊を味わいました。

▲莫高窟の文化遺産▼

歴史の謎とされ、秘密の古文書(約三万卷)の蔵経洞がある莫高窟の壁画や、仏像を懐中電燈の光で鑑賞し、洞窟の大仏像、高さ33メートル(奈良の大仏が16メートル)の巨大さに驚嘆しました。砂丘

の全洞窟、四九二窟がこれまで明らかにされ、平山画伯の提唱によって官民一体で保護協力されることについて認識を新たに

しました。

▲古都・西安の華▼

ともあれ、インドを起源とする石窟寺院は、いわゆるシルクロードを通過し、敦煌で開花し、莫高窟は、障害を乗り越え、仏教壁画や優美な菩薩などが今に生き続いています。

黄河の支流に広がる盛唐の都西安を訪れました。歴代皇帝の陵墓や、シルクロードの起地に大富豪が巨大な首都圏を築いた

「国際交流サロン」月例定着

会員の積極的参加を

広島ユネスコ協会では、文化事業の一環として、毎月一回、国際交流サロンを開催しています。

これは、これまでの当協会の活動が、どちらかというと、停滞気味であることの反省のうえに、定例的に会員が参加できる事業を実施していこうというもので、毎月一回、著名な講師、それぞれの分野で顕著な功績をあげておられる講師から、国際交流、文化などのお話しをお聞きしております。

すでに、昭和六十三年一月には、備前焼陶芸作家の藤原雄氏

都です。「秦始皇兵马俑」の地下博物館の陶製美に圧倒されました。

玄宗が楊貴妃と都落ちしたロマンで有名な「華清宮」や、儒学の經典を刻みつけた「碑林」の歴史的遺産も見学しました。

この眼で確かめることのできた中国の文物と自然、そして人びとのおもてなしに、日中ユネスコの友好と交流をさらに深めていく決意を新たにしました。

▼べあせろべあせろ▼

ボランティア活動による国際交流を目指した「べあせろ」が、昨年11月、広島市公園で開かれ広島ユネスコ協会も主催者の一員として遊びのコーナーを担当、外国人留学生、子供らと楽しい秋の一日を過ごしました。

▼日本ユネスコ全国大会▲

第44回大会に広島ユネスコ協会から河村盛明会長をはじめ七人が参加しました。

欧経済関係、一九九二年のEC域内統合と日本への影響」

これら例会は、毎回、(財)広島市国際交流協会に主催者として参画していただいています。このほかに、その都度、日本外交協会、広島日独協会などの団体にも共催者として加わっていただいております。また、参加も会員以外の方も多数あり、着実に、この事業が定着しつつあるといえましょう。

今後、この事業を続けることとしておりますが、会員の皆様方の多数のご参加をいただくようお願いいたします。

次回は二月二十五日(土)午後二時(本通り・アンデルセン)、「国際交流あれこれ」広島県立女子大学学長河上道生氏を予定しています。

を、また、二月には琴古流尺八宗家の川瀬順輔氏をお招きしてきました。

昭和六十三年度も、ひきつづき、この事業を実施しています。が、六十三年四月以降の実績、計画は、つぎの通りです。

◆四月二十六日明治大学教授・越智道雄氏「アジアの目世界の目」、六十五名参加◆五月十日上智大学教授・渡部昇一氏「最近の西ドイツ情勢」二十名参加◆六月十八日広島市郷土資料館主任学芸・榎本克彦氏「植物と国際交流」二十六名参加◆七月二十三日広島大学附